



新「敬老バス」を改善してほしい  
「高齢者の社会参加促進」は有名無実に  
札幌敬老バスを守る連絡会

# 敬老バス一一〇番

札幌敬老バスを守る連絡会による新制度への要望・相談を受ける「敬老バス一一〇番」が六月四日に行なわれ、五一件の電話がありました。

「足りない、追加をしてほしい」

札幌市の70歳以上の高齢者に利用されている敬老バスは、昨年度までは主な公共交通機関を無料で乗車できるバスとして役だっていました。ところが一昨年当選したばかりの上田文雄札幌市長は、老人クラブや多くの高齢者などの反対の声を押し切って、今年の4月から「5万円までの上限」と「利用額に応じた負担金の導入」という改悪を行いました。

改悪後2カ月を経過した時点での今回の「110番」では、開始時間前から電話が鳴り始め、「連絡会」役員ら電話相談受付は大忙し。新聞やテレビの報道で知ったという敬老バスの利用者から切実な要望と、具体的な相談が51件も寄せられました。

清田区の八四歳の男性は「昨年までの経験から三万円分のカードを申請して余ると思っていたが、病気になって通院が増えたので足りなくなつた。不足したら追加で交付してほしい。今の制度は敬老の意味が違うのではないか」と意見を寄せました。このように「足りなくなつたので追加してほしい」という要求は一六人、また「せめて上限をなくしてほしい」という人が一四人もありました。特に通院で予想以上に使うという人が多く、敬老バスが今まで高齢者の必要な生活の足として利用されていたことが、改めて浮き彫りになりました。「新制度に変わって一年分を予測してカードを買えといわれても無理がある。まして高齢者は病気になりやすく、先行きのことは分かりづらい。せめて追加で買えるとか、年数回に分けて交付できるとよい」といった声が代表的でした。

また三月までに制度の変更を知らず申請ができなかつたという人もあり、市が申請受付を七月末まで延長していることを知らせると「友人にも知らせてさつそく申請する」という例もありました。

新「敬老バス」を改善してほしい—  
「高齢者の社会参加促進」は有名無実に

札幌敬老バスを守る連絡会

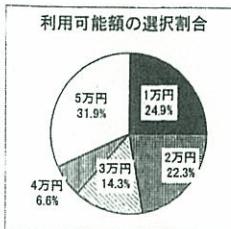
# 「敬老バス一一〇番」



## 敬老優待乗車証の交付状況 5月12日現在

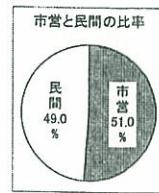
### ○一斉交付の状況

- 申請書送付対象者 196,600人  
(70歳以上227,600人)
- 交付申込者 149,100人  
(障がいの交通費助成の併用申請者3,600人を含むと152,700人が申し込んでいる。)
- 申請率 75.8%
- 利用可能額 平均29,800円  
⇒総額4,557百万円  
⇒男性: 27,900円、女性: 31,300円
- 市民の負担 総額 839百万円 平均5,500円



### ○4月の利用実績等

	利用実績	事業者の負担	市の負担
総計	368	74	294
市営	188	38	150
民間	180	36	144



### ○その他(交付後、5月12日現在)

- 利用者納入金の返還 90件 (446,000円)
- 落し物として敬老優待乗車証が届け出られたケースは、123件

### ○今後の日程

一斉交付の対象であるが、まだ受け取っていない市民に対し、7月末まで申請を受け付け、8月末まで交付を行う。

※ 新たに追加交付の対象となる市民（年齢到達、市内転入）へは、8月上旬に申請書を送付し、9月から交付を開始する。

—— 札幌市高齢福祉課 ——

## 社会的活動や楽しみに 使う分はなくなつた

象徴的だつたのはある女性の「通院や買い物が優先するのでそれにはまず使います。様々な市の学習講座や講演会等は行きたいと思つても抑えてしまします。友人は以前は定山渓へ行き温泉に入るのを楽しみにしていたのに、もうほとんど行けなくなつたと残念がつています」という言葉です。高齢者の社会参加や「明るく豊かな老後の生活の充実を図る」という敬老バスの目的は、今回の改悪で有名無実となつてしまつります。

## 要求アンケートとともに 改善要求を市長に

「連絡会」は、並行して「私の要望アンケート」をとりこんでいます。開始から一週間で一五〇を超える答えが届きました。多くの方が自分の意見を書いており、「元に戻してほしい」「上限をなくしてほしい」「追加交付をしてほしい」と述べています。

「連絡会」では、今後「一一〇番」やアンケートで寄せられた意見・要望をまとめ、市長へ要求を提出することにしています。